

感染症定期報告感染症別文献一覧表(医療機器 2015/10/1~2016/3/31) **資料 3-1-1**

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	PIG WORLD (2015.09.06)	英国におけるE型肝炎について。外国産(主にフランスとドイツ)のソーセージ用挽き肉が英国のE型肝炎症例増加の原因である可能性があると報告された。
2	インフルエンザ	MMWR. 64(2015)1011-1016	米国におけるインフルエンザAの報告。2015年5月24日~9月5日に、インフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)感染症例が7月にMinnesota州で、8月にMichigan州でそれぞれ1例報告され、インフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)感染症例が8月にIowa州において1例報告された。
3	A型インフルエンザウイルス検査陽性	Arch Virol. 160(2015) 29-38	ブラジルにおけるインフルエンザA型(H1N2)の再集合体ウイルスの報告。2009年からブラジルにおいてブタインフルエンザAウイルスの受動的監視が行われており、2010年から2011年の間にH1N2が呼吸器疾患の症状を呈する子ブタから見つかった。当該報告は流行性インフルエンザウイルスH1N1からヒト型H1N2型ウイルス再集合体が派生し、ブラジルのブタに呼吸器疾患を引き起こした初の報告である。
4	A型インフルエンザウイルス検査陽性	CDC MMWR 64(2015) 583-590	2014年9月28日から2015年5月23日までに、インフルエンザウイルスA(H3N2)変異型(H3N2v)感染が1例、A(H1N1)変異型(H1N1v)感染が2例報告された。
5	A型インフルエンザウイルス検査陽性	ProMED-mail 20150804.3556121	米国Minnesota州のブタからインフルエンザウイルスの新型株が発見され、ブタ及びヒトの種間伝播が報告された。
6	A型インフルエンザウイルス検査陽性	ProMED-mail 20150830.3612253	米国における新型インフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)のヒト感染例の報告。本症例はH1N1vに感染し入院した。継続したヒト-ヒト伝播は確認されおらず、本症例は発症の前週にブタとの濃厚接触があった。
7	H1N1インフルエンザ	ProMED-Mail 20150905.3626427	米CDCは、Michigan州から報告された新型インフルエンザAウイルスのヒト感染1例について発表している。患者はインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルスに感染し、2015年6月に入院した。
8	ブタインフルエンザA型ウイルス	Virus Reseach. 201(2015)24-31	2009~2014年に採取した北米のブタインフルエンザA型ウイルスに対し、総合的な系統樹分析を行った結果、検出率は低いものの約20年間北米において蔓延していたH1の分岐群(H1 γ -2)を見出した。この分岐群(H1 γ -2)の代表ウイルスは抗原性が変異しており、同族のH1 γ ウイルスに対するワクチンは効果がないことが示された。
9	ウエストナイルウイルス感染	Parasait Vectors. V.8:463. 2015/09/19	アカイエカにウエストナイルウイルス(WNV)感染性血液を摂取させたところ、全ての個体においてWNV媒介能力を示したとの報告。
10	狂犬病	ProMED-mail 20150901.3616621	ブラジルにおける狂犬病の報告。ブラジル当局は2015年8月30日生後20ヶ月の男児1例の狂犬病による死亡を確認した。男児は8月20日にネコに噛まれた後、治療を受けていた。また、Public Health Secretaryの狂犬病管理プログラムによると狂犬病の動物が26例報告されている。感染した動物は、ウシ、非吸血性コウモリ、イヌ、ブタ、ウマ、キツネであった。
11	口蹄疫	OIE 2015年6月19日付け	韓国におけるブタの口蹄疫の報告。2015年3月3日~4月28日の間に新たに64件の口蹄疫感染が確認され、48,700例のブタが処分された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
12	口蹄疫	ProMED-Mail 20151218.3871669	中国Soozhuにおいて口蹄疫の蔓延が認められ、ブタの価格に影響を及ぼしているとの報告。
13	口蹄疫	ProMED-Mail 2011021.3732795	中国Liaoningにおいて口蹄疫が発生しており、アウトブレイク地域が急速に拡大しているとの報告。
14	口蹄疫	ProMED-mail 20151203.3837323	中国の山東省、河北省、江蘇省において2015年11月初旬からブタの口蹄疫感染が報告され、地方のブタの価格に影響しているとの報告。
15	オルソポックスウイルス感染	N Engl J Med. 372(13)(2015)1223-1230	ジョージアにおいて、2013年、天然痘ワクチン接種歴のない男性2例が、オルソポックスウイルス曝露歴があるウシとの接触後に新種のオルソポックスウイルスに感染した。また、ジョージア国内の他の地域で、2010年に炭疽感染の疑いとされていた症例の保管検体でオルソポックスウイルス感染が確認された。これらのことから、動物との接触後に皮膚病変が認められた場合、オルソポックスウイルス感染の可能性も考慮されるべきである。
16	コロナウイルス感染	Int J Infect Dis. 38(2015)65-67	韓国において2015年7月14日時点で185例の中東呼吸器症候群コロナウイルス(MERS-CoV)が報告されている。院内感染がウイルス伝播の重要な要因であることがわかったとの報告。
17	ブタ生殖器呼吸器症候群ウイルス(PRRSV)	Am J Vet Res. 76 (2015)70-76	米国におけるブタ生殖器呼吸器症候群ウイルス(PRRSV)の報告。米国の雌ブタ371群におけるPRRSVの時間的、空間的動態について比較を行った結果、動態パターンは著しい再現性を示すことが明らかとなった。
18	ウイルス感染	Emerg Infect Summary-May 2015	米国におけるオルソレオウイルス3の報告。米国においてブタ流行性下痢を発生したブタの糞便及び乾燥血粉飼料から新種の病原性哺乳類オルソレオウイルスの分離及び解析を行った結果、当該ウイルスは哺乳動物およびコウモリのオルソレオウイルス3のS1セグメントに強い親和性を示した。mBio.6 (2015)e000593-15. の内容。
19	ウイルス感染	mBio.6 (2015)e000593-15.	米国におけるオルソレオウイルス3の報告。米国においてブタ流行性下痢を発生したブタの糞便及び乾燥血粉飼料から新種の病原性哺乳類オルソレオウイルスの分離及び解析を行った結果、当該ウイルスは哺乳動物およびコウモリのオルソレオウイルス3のS1セグメントに強い親和性を示した。
20	ウイルス感染	Emerging Infections Summary -June 2015	ドイツにおけるウシの新型ヘパシウイルスの報告。家畜のウシの血清サンプルから真正ヘパシウイルス属の新型ウイルスであることが確認された。ドイツで行われたRNAスクリーニングの結果、個体では320頭のウシの個体のうち1.6%が、群単位では158のウシの群のうち3.2%が、ウシヘパシウイルスに陽性であった。
21	ウイルス感染	J Virol. 89(2015)4588-4597	ガーナ共和国において、ストローオオコウモリから検出された新種のラブドウイルス(Kumasi rhabdovirus)の報告。
22	クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE 2015年6月26日付け	アイルランドにおけるBSEの報告。アイルランドLouthにおいて定型型BSEが報告された。ウシにおいて疑い例289例、症例1例、処分例1例が報告された。
23	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	proMED-mail 20150627.3467749	アイルランドにおけるBSEの報告。アイルランドLouthにおいて定型型BSEが報告された。ウシにおいて疑い例289例、症例1例、処分例1例が報告された。
24	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20150919.3655898	スロベニアにおける牛海綿状脳症(BSE)の報告。ウシにおいて疑い例2例、症例1例、死亡1例が報告された。感染源は不明もしくは結論に到達していない。

ID	感染症(PT)	出典	概要
25	ブドウ球菌感染	THE PIG SITE (2015.08.13)	ノルウェイ獣医師協会は、Gran市のブタの群れにおける家畜関連メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の疑い例を食品安全局(FSA)に通知した。
26	ブドウ球菌感染	THE PIG SITE (2015.09.04)	ノルウェイ獣医学研究所は、Rogalandのブタの群におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の検出を食品安全局(FSA)に通知した。
27	レンサ球菌感染	感染症学雑誌. 85 (2015)261	国内におけるレンサ球菌の報告。ブタとの接触歴のある患者においてレンサ球菌による敗血症性ショックが報告された。
28	レンサ球菌感染	SD Med. 68(2015)298- 299	米国におけるレンサ球菌感染の報告。米国の妊婦においてレンサ球菌(Streptococcus Thoraltensis)による羊膜炎が報告された。妊婦の夫が精肉店で日常的にブタ肉に接触していることから、当該菌種が家庭に持ち込まれ、妊婦の膣内にコロニーが形成されたことで羊水の汚染に至ったと推察されている。
29	レンサ球菌感染	ProMED-Mail 20150721.3525855	2015年6月、Hong Kong Centre for Health Protection(CHP)は、Streptococcus suis(ブタレンサ球菌)感染症例3例を記録した。52歳の女性1例は2015年6月18日に症状を呈した。80歳男性1例は6月23日に症状を呈した。46歳男性1例は6月23日に症状を呈した。全3例の血液検体から、ブタレンサ球菌が得られた。全例とも生のブタ肉を取り扱ったが過去の皮膚損傷またはブタとの接触を否定している。
30	レンサ球菌感染	BMC Infect Dis. (2015)15:392	タイにおいて、ブタレンサ球菌血清型31型の初めてのヒト感染例が報告された。患者は肝硬変を患ったアルコール依存の男性で、敗血症にて入院した。発症前に自家製の生の豚肉製品を消費していた。
31	サルモネラ症	ProMED-Mail 20150726.3537079	Washington州防疫官は、サルモネラ症の発生がブタ肉の喫食と関係する可能性を報告した。保健省は、Washington州の8つの郡で、少なくとも56例のサルモネラ症症例を調査している。調査では、いくつかの症例の原因が、料理済のブタ肉の可能性があると示している。汚染の原因については調査中である。
32	サルモネラ症	ProMED-Mail 20150815.3580620	Washington州防疫官は、ブタ肉製品との関連があるサルモネラ症の発生が10の郡で134の事例に増大したと報告した。感染原因の多くが、調理済のブタであったと報告した。
33	サルモネラ症	ProMED-Mail 20150819.3583697	CDCの2015年8月14日金曜日の夕方の最新情報によると、3例のサルモネラ感染者の抗生物質耐性検査の結果、ampicillin、streptomycin、sulfisoxazole、tetracyclineに対して耐性を示すことがわかった。抗生物質耐性は、入院の増加の危険性、血液感染症の発生または患者の治療失敗と関連する可能性がある。
34	ブルセラ病	ProMED-Mail 20150923.3666018	オーストラリアにおけるブルセラ症の報告。New South Wales北部のブタのハンター1例が報告され、2015年にブルセラ症に感染した3例目のヒト症例となった。
35	ブルセラ病	OIE 2015年11月3日付 け	ウルグアイにおけるブルセラ症の報告。ブタにおいて疑い例663例、症例41例が報告されている。感染源は不明もしくは結論に到達していない。
36	旋毛虫症	ProMED-Mail 20151006.3693990	アルゼンチンにおける旋毛虫症の報告。Buenos Airesの南西地区に位置する都市であるBahia Blanca市で旋毛虫症が報告された。地元メディアは、100例以上が感染し、感染者のうちの20%は小児であると報道した。ドライソーセージの消費が感染症の原因として示されている。
37	肉胞子虫感染	Parasitology. 142(2015)549-556	米国における肉胞子虫症の報告。2012年から2014年の間、1006頭の野生ブタについて調査を行った結果、25%から肉胞子虫が検出され、高い割合で心筋への感染が認められた。シーケンス解析により肉胞子虫症 Sarcocystis miescherianaが確認された。